

よくない隣人

福田椿

（自己の内面の外在化について
それを特定の他者に投影すること
望まれる夢）

夢で見た

貴方

の匂いは、一人きりの寝室の匂いとおんなじで

私が貴方のことを、何も知らない。

ということに、どうしようもなく気づかされる。

私達の間にある

親しい。

しかし、たしかな隔たり

ただ存在している空気

私には、もう

それ以上知り得ないということ……。

でも、きっと

貴方の匂いはお兄さんの匂い。

私には、存在しない

兄がいて、

彼は私とよく似ている。

自分の嫌いなところがたくさん！ 彼の中に

透けて見える。

だからわたしはお兄さんが好き。

お兄さんと私の間には、

やはり親しい。

しかし、兄弟愛が存在しており

私達には、

はつきりと

何もかもが、分かっている。

お互いのあやまちを

たくさん、お互いの中に

認めているから、寸分違わぬ造形を信じる

そうした方法で、はじめて

貴方の（私の）唇を

私の（そして貴方の！）指先を

ゆるせるようになるというの。

お兄さん、

私以外の赦しを貴方は請うのですか

そんなことを望むのですか

貴方がどうなろうと知ったことではない。

ただ、

私とは異なるかたちの赦しが貴方に与えられることを思い浮かべて

貴方に

会うこと、夢に見る。

それを望む

いまは、それを夢に望んでいる。